

# 学園生、カリフォルニアに上陸！



煉瓦の色が青空に映える「Royce Hall」の前で、平和学・女性学の権威リズベス教授(前列中央)とともに

*California Train*

Vol. 1

民主主義の国  
—アメリカ

関西創価高校海外フィールドワークメンバー一行は、日本航空60便で定期通りロサンゼルス国際空港に到着、アメリカへの第一歩を記した。

空港のゲートから町中に出る、澄み切ったカリфорニアの青い空とともに、今トマニユースを振わせているトランプ新大統領による「移民排斥命令反対」を叫ぶデモ隊の「歓迎」を受ける。民主主義の国—アメリカを肌で感じた瞬間だ。

石油王J・ポール・ゲイ氏の没後、財団によって運営され無料で一般公開されている全米屈指の美術館、ゲティー・センターを見学した後、1日目のセッションを行うためUCLAへと向かう。

平和学、女性学の権威であるリズベス・ガント・ブリトン教授やUCLAの学生も交え、遅い昼食を取り組んできたテーマについて、グループに分かれ活

つた。場所を移した後、大塚貴(3年)と川合君(2年)による「ジエンダー平等」についてのフレッシュな講義がスタート。したプレゼンテーションを受け、リズベス教授による「緑陰講義」がスタート。

「歴史的に見て、男女の『格差』が顕著になってきたのことは、仕事や家庭の環境など社会事情の変化が大きく影響しています」などのお話を伺った。



▼《感想》

▼カリifornia大学の美しい自然に囲まれながら、リズベス教授や学生の方との間はとても有意義なものでした。男女平等について話しましたが、日本でもアメリカでも同様の課題がありましたが、日本でもじ女性として、リズベス教授が強い信念をもって探求されることを学びました。同じことを学ぼうと決意しました。自分の英語力をさらに磨き、男女共に輝く世界のためにもっと多くのことを学ぼうと決意しました。明日はさらに積極的に挑戦し、悔いのない研修になります！（3年・松山美華）

▼1日目を無事終えることができました。1日目は、空港のデモ隊から始まり、ゲティセンター、UCLAを訪れ、アメリカの生活の雰囲気を肌で感じる事ができました。早速、僕たちのグループのプレゼンテーションがあり緊張しましたが、上手くいって良かったです。残り4日間も必ず無事で終えられるように頑張ります。（2年・川合第一）

# 南カリフォルニア大学でセッション

## 一世界平和実現に向けた宗教間対話の重要性とは――



## 宗教学の権威：南カリフォルニア大学のバレン・ソニ博士と、宗教間対話の重要性についてセッション

Vol. 2

## 「平和の文化」 構築を目指して

○V（ピクトリー・オーバー・バイオレンス）運動」など、非暴力による「平和の文化」構築に向けた活動を強力に推進してこられた。それを強力に推進してこられた。この会議は、平和委員会のメンバーとともにセッションを行った。ここで「非暴力」が「暴力」に打ち勝つには「対話」が最重要であるとの認識で一致。マクレイス委員長は「世界平和といつても決して遠くにあるのではない。身近なところに広がっている対話の舞台をおろそかにせず、一歩ずつでも前に進み続けることが大切」と強調。使命に生きようとする学園生の姿に限りない期待を寄せてくださった。



が大切」と強調。使命に生きようとする学園生の姿に限りない期待を寄せてくださった。



生らと構  
内を回り  
ながら意  
見交換を  
続け有意  
義な一日  
を終え  
た。

宗教学の最高権威であるバルン・ソニ博士とのセッションでは、まず人権グループのメンバーが「テロに向き合う対話の力」とのテーマでプレゼンテーションを行った。時折うなずかれる博士。「すばらしい内容だ」と絶賛された上で博士は「なぜ差別は起きるのか」、「なぜ世界で紛争は絶えないのか」について、インド、パキスタン、9・11、宗教間対話の現状など、事例を次々と挙げながら特別講義を開催。最後には「あなた方の意見はどうても重要です。若い日本の学生たちが核廃絶を訴えることに意義がある」「一人の声の力はとても大きい。大勢で訴えれば更に力強い。自分を小さく見てはいけない。君たちも世界に飛び出し、対話の渦を巻き起こしてください」と、大きな使命を持つ学園生を力強くも温かく激励され、セッションを締めくくられた。

▼午前は平和委員会の方々の前でプレゼンテーションをおこない、「アメリカで心理学を学ぶために、必ず帰って来ます!」と言宣言することことができました。また南カリフォルニア大学でのバルン・ソニ博士との懇談では、質問の機会をいたただき、「背景にある文化は違つても、全ての宗教が平和をを目指していると知ることができますが、核廃絶のために何よりも大切だ」との答えをいたさぎ、来年は反核グルーブがUSCでプレゼンテーションする機会を作つてくださいと約束していただきました。関西創価の新しい歴史を作つているとの自覚を持ち、明日も頑張ります。(3年・野口良美)▼2日目は、南カリフォルニア大学を訪問しました。「どんな分野の人でも宗教を学び続けるべき」とのソニ博士の言葉に、私は自らの目指すべき道が少し見えた気がしました。それは、科学者として人々の役立ちたいと考えている上で、宗教どこのように向き合うのかという疑問の答えに繋がったからです。これから仏教のまた他宗教のことも更に理解していくかと思います。

# 学園生による“高校生平和提言”

## —チョウドリ元国連事務次長をお迎えして—



Vol. 3

### 私たちが受け継ぐ 平和へのバトン

快晴の空の下、待ちに待ったアメリカ創価大学（SUA）でのプログラムは、ハヅキ学長の出迎えというサプライズから始まった。午前中は、ショナイナースツアードルフ校の高校生と交流しながらキャンパスツアーに参加。昼食までとも過ごす。

午後は、一年間かけてリサーチに取り組んだ研究グループ毎に6人の教授の研究室に分かれ、1対2の3人の特別セッションに臨む。最高の教授陣と過ごした90分間は貴重な財産となったに違いない。

15時からは、ハヅキ学長との懇談会。自身の悩みを吐露した学園生が、温かい激励を受け、涙ながらに決意する場面も見られた。

16時からは、フィールドワークの山場の一つであるチョウドリ国連大使とのセッション。冒頭の15分間は関西学院の中高全39教室と結んでのライブ中継も実現、大使は千七百人の学園生に「『平和の文化』に強い関心を持ち、未来の世界市民を目指す君たちの努力

を今後もサポートしていくたい」「20年前に池田先生がコロンビア大学ティーチャーズカレッジでスピーチされた『世界市民へのビジョン』を体現しているのは君たちだ」と呼び掛けられました。更に『世界市民になるために乗り越えねばならないこと』として『自分の無知を乗り越えること』『違いを乗り越えること』の2点に言及。「一人一人が『平和の文化』構築の主体者になってほしい」と激励し、再会を約してくださいました。

中継終了後、チョウドリ大使は2時間を超えるセッションにも引き続き参加してくださり、私たちの『平和提言』一つ一つに大きく御自身の経験からコメントを寄せてくださいました。

また、終了の時間が迫る中「もう質問はありませんか」と何度も聞いてくださいり、記念撮影後にも一人一人のものを取り握手してくださる姿に「次代を拓く人材を何としても育てるのだ」との大使の気迫を感じずにはいられなかった。

夕食後には、SUAの現役学生と6グループに分かれれてセッションを行い、今日の全プログラムを大成功裏に終えることができた。

（2年・和田勇希）

▼今日は創立者の築いてこられた友情や信頼があつたからこそ、得られた出会いがたくさんありました。特にチョウドリ大使という、普通の高校生では決してお会いすることができないような方と時間を共有できたことはとても直重要な経験でした。またハヅキ学長から激励の言葉をいたしたいたり現地の高校生と交流することで、有意義で心に響く思い出ができました。明日も気を抜くことなく、色々なチャンスを自分のものにできるよう積極的に行動します。（2年・和田勇希）

（感想）  
▼ずっとあこがれていたSUAを訪れることができた。今日は、晴天にも恵まれてでも充実した一日となりました。ハヅキ学長、チョウドリ大使と連続して3時間以上にも及ぶディスカッションでしたが、あつという間に時間が過ぎてしまふほど有意義なものとなりました。創立者と深く関わっているお二人の希望溢れるお言葉に、創立者の姿が重なり胸がいっぱいになります。改めて自身の使命の大きさを実感しました。折り返しとなる明日からも気を引き締めて頑張っていきます。（3年・阿部羅良枝）



食事をしながら、ウォルドルフ高校の生徒と交流



ハブキSUA学長がサプライズで出迎えてくださる



「テロとの戦い」グループ、ピーター・バーン教授



「核廃絶」グループ、ジョン・ヘフロン教授



「ジェンダーの平等」グループ、サラ・イングランド教授



「児童貧困」グループ、マイケル・ウィーナー教授



「児童労働」グループ、ホン・イ・チェン教授



「食糧政策」グループ、ジョージ・ブッセンバーグ教授

# 平和を求める気持ちは世界共通！

友情の深さと過ごした時間は比例しないことを実感



Vol. 4

価値ある一瞬に  
未来は創られる



チョウドリ大使も再び学園生の激励に  
インドの諸問題の展示前で



---

www.nature.com/scientificreports/

を得ました。更に、SUA 生に自分の考え方への意見を求めてディスカッションしたり、詳しくは知らない問題に関してどのような研究がなされているのかを知るなど、有意義な時間を過ごすことができました。またウォルドルフの高校生との交流にとても刺激を受け、私たちも提言をまとめるだけではなく、実際の行動に移していくと決意しました。(2年・細見桃花)

アメリカ創価大学(SUA)を訪問。時事問題に関する学生が自ら教員と共にで授業を用意・構築する3週間の独自プログラム『ブレニンゲ・クラスター』の研究成績発表の場である『ブレンゲ・クラスター・フェア』を見学した。学園生は各アーチスをまことに回り、SUA生に英語で質問。課題の解決法についてその場で子

イスカッシュョンするなど、積極的な学びを開拓した。

▼今日は最初にSUAを訪問しました。参加したLCフェアでは、SUA生の皆さんがリサーチをボススターや映像を使ってわりやすく説明してくださったのがとても印象的でした。そしてウオルドルフ高校へ行き同世代の高校生と互いの学校や自分たちのリサーチについて紹介し合いました。一日を通して強く感じたことは自分の言葉でどうまで相手にわかりやすく伝えられるかということです。学びを自分のものとし、他者にその学びを広げていけるようこれからも頑張りたいです。(3年・松本沙也香)  
▼SUAのLCフェアでは積極的に行動するほど決めてたくさん質問をし、私たちのリサーチにつながる情報を得ました。更に、SUA生に自分の考え方への意見を求めてディスカッションしたり、詳しくは知らない問題に関してどのような研究がなされているのかを知るなど、有意義な時間を過ごすことができました。またウォルドルフの高校生との交流にとても刺激を受け、私たちも提言をまとめるだけではなく、実際の行動に移していくこと決意しました。(2年・細見桃花)

「君たちが果たしゆく使命」に感謝

一核時代平和財団デイビッド・クリーチャー会長



Vol. 5

「希望」があれば行動できる



全米で最も美しいキャンパス

午後は、今回のフィールドワークのハイライトとなる、核時代平和財団ディビッド・クリーガー会長とのセッションに臨んだ。クリーガー会長は、私たち一行を包み込むような笑顔で迎え、カッキーと一緒にスケッショングはまずクリー

は、午前中より、全で最も美しいキャンパスと言わ  
れている。カリフォルニア大  
学サンタバーバラ校(UC  
SB)を訪問。キャンバ  
スツアーを行い、昼食をと  
った。フィールドワークの  
期間中、訪問した大学はこ  
れで4つ目となった。



## 核時代平和懇親団の質素な建物

が、そこに多くの人の犠牲  
があったこと、それこそが  
核兵器廃絶のために広めな  
ければならない視点です」  
と話され、学園生の質問を  
受けてくださった。

「広島・長崎の訪問は人生を変えるものでした。多くの人はなかなか訪問できなかい場所です。そこでリサーチした広島の証言を、どう世界と共有するかが君たちの使命であります。原子爆弾はテクノロジーのテストのために使われたのです

ガーラー会長から、核廃絶に取り組んでこられた自身の足跡をお話いただいた後、学生から学校紹介と核廃絶についてのプレゼンテーションを元気一杯に行なった。

▼今日は各時代平和財団のディビッド・クリーガー所長とのセッションでした。核兵器は絶対悪です。でも時々「本当に核兵器は廃絶できるのだろうか」と自信をなくすこともあります。しかし、自分の信念を強く持ち、未来を強く信じて、『希望を選択』し続けれ

▼最終日を迎えた今日、思ふことは、全ては私たち次第だということです。今日のクリーガー所長との懇談を通して、核廃絶という大きな問題の解決も一人の決意と行動から始まる限りました。世界平和への道の途中、諦めそうになつたその時、いかに希望を見出せるか。ここにこの研修に参加したことの意味があると思います。5日間でお会いした全ての方々の期待を心に刻み、私達16人はこの研修を新たなスタートとして、挑戦をしてまいります。